

背景・目的

英文学科では、2010年度より学習支援のシステムに考慮したプログラム "Peer-Assisted Learning (PAL)" を設置し、学科英語教育に導入した。PAL では、主に卒業生（本大学院生および修了者）が学科独自の基礎英語能力調査試験 (Achievement Test, AT) の対策支援にあたってきた。

英文学科では、2016年度のカリキュラム改訂を先取りする形で、2015年度から1年次の Grammar に共通教材を使用している（『マーフェイのケンブリッジ英文法（初級編）』）。この教材は、AO 入学者、推薦入学者には入学前に配布を行い、入学前教育に使用した。さらに、本教材を用いた「文法テスト (grammar test, GT)」を行い、1年生を上位クラスと下位クラスに能力別に分けた。GT は、AT とは異なり1年次の Grammar の講義と直結している。さらに、使用教材は、基礎的な英語力があれば、学生が自立的に英語を学習できるように英文が配置されており、受講者の自立性を育むことも考慮している。

従来の文法教育は、教員の「教授可能性 (teachability)」に力的がおかれ、学習者が学習可能かどうか (learnability) には、あまり注意が払われてこなかった。その結果として、正確な文法知識が定着せずに、英語力が伸びない大きな要因となっていると言われている。本研究は、このような課題を克服するために、英文学科1年生の英文法の基礎力を保証し、さらに英文法の知識を言語運用に利用できるようにシステムの開発を目指す。

実施内容

4月に実施した placement test の結果、Grammar 1 を上位クラス Grammar 1 (a) (46

名)と、下位クラス Grammar 1 (b) (44名；2名の未受験を含む)に分けた。講義は、受講生の予習を前提に、テキストの解説を行った。上位グループは、基礎的な内容に加え応用問題も扱った。下位グループは、基礎的な知識の習得に力点を置き、テキストの解説を行った。前期終了後に行った、GT では38名が85点以上の合格、52名が84点以下の不合格（4名の未受験を含む）となった。合格者は、Grammar 2 (a)のクラスで、テキストとして All in One を用いて、Grammar 1 (a)でカバーできなかった文法項目を重点的に学んだ。GT で不合格者は、Grammar 2 (b)のクラスで、前期と同じテキストを用いて再度基礎的な項目の知識の習得に努めた。さらに、講義に問題のある学生に対しては、学習支援を PAL プログラムで行った。不合格者に対して、1月29日にGTを実施し、合格20名、不合格32名（5名の未受験を含む）。不合格者に対して、2月27日に再試験を行った。その結果、欠席者1名、再受験資格のない6名を除いた再受験者20名中16名が合格となった

	GT-Aug	GT-Jan	GT-Feb
不合格者数	52	32	11
不合格者の割合 (%)	58%	36%	12%

[不合格者には未受験者を含む]

結果及び考察

4月の placement test 時の文法力は、GT-Aug の時点でかなり伸びたが、それでも不合格者が多いということは、入学段階で文法に関する知識がかなり欠如していることを示している。今後、文法項目の弱点を分析して、来年度以降の Grammar 1, 2 の改善に努めるつもりである。